

## 月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載いたします。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申込みください。

e-mailで [toukou@geppou.asj.or.jp](mailto:toukou@geppou.asj.or.jp)宛。

なお、原稿も必ずFaxで0422-31-5487までお送りください。

### 人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目に従ってご投稿ください。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

#### 東京大学宇宙線研究所助教

1. 助教1名
2. (1) 宇宙基礎物理学研究部門  
(2) 千葉県柏市
- 3, 4. 宇宙論および銀河形成に関する光赤外線観測を通して広義の宇宙線研究に従事する。特に、本研究所の観測的宇宙論グループの教員と協力して、広領域深宇宙探査を推進する。また、観測的宇宙論研究に関する将来計画にもかかわっていただきます。
5. (1) 平成27年4月1日以降なるべく早い時期  
(2) なし
6. 博士号取得者
7. 応募者は以下の(1)から(5)までの書類を、e-mailに添付（電子ファイル）で提出してください。(6)の意見書は、作成者から直接e-mailに添付で応募締切日までに提出してください。応募書類・意見書のファイル形式はpdfとします。e-mailによる提出に対しては、受信した旨の返信をしますので、必ず当方からの返信の有無を確認してください。やむをえない場合は書留での郵送でも結構です。郵送の場合は封書に「教員応募書類（観測的宇宙論）」と朱書きしてください。  
(1) 履歴書（市販の様式相当、博士号取得年月およびe-mailアドレスを必ず記入してください。）  
(2) 研究歴（A4判3頁以内）

(3) 業績リスト（論文リスト、口頭での発表を含めた研究発表リスト等）、および主要論文（3編以内）。提出する論文については論文リストに印を付け、一目でわかるようにすること。

- (4) 着任可能時期
- (5) 着任後の研究計画（A4判3頁以内）
- (6) 意見書または推薦書2通

8. 平成26年12月1日（月）17時必着

9. (1) e-mail: [application\\_at\\_icrr.u-tokyo.ac.jp](mailto:application_at_icrr.u-tokyo.ac.jp)  
（メールを送信する際は\_at\_を@に直してください）

郵送 〒277-8582 千葉県柏市柏の葉5-1-5  
東京大学宇宙線研究所 総務係

(2) 同研究所長 梶田隆章  
e-mail: [kajita\\_at\\_icrr.u-tokyo.ac.jp](mailto:kajita_at_icrr.u-tokyo.ac.jp)

Tel: (04)-7136-3100

職務内容に関しては、以下へ  
観測的宇宙論グループ准教授 大内正己

Tel: (04)-7136-3157

e-mail: [ouchims\\_at\\_icrr.u-tokyo.ac.jp](mailto:ouchims_at_icrr.u-tokyo.ac.jp)  
（メールを送信する際は\_at\_を@に直してください）

10. 応募書類の提出に対しては、受信した旨の返信をいたしますので、必ず当方からの返信の有無を確認してください。

11. 選考：選考委員会による書類選考（第一次審査）を行い、最終選考は、面接によります。

その他：「東京大学男女共同参画加速のための宣言」に基づき、女性の応募を歓迎します。

#### 琉球大学理学部教員

1. 准教授または講師1名
2. (1) 物質地球科学科・物理系・物質基礎学講座  
(2) 沖縄県西原町
3. 宇宙物理学（理論）
4. 専門教育（大学院・学部）および共通教育を担当
5. (1) 2015年4月1日以降のできるだけ早い時期

- (2) なし
6. 博士の学位を有する方。大学院博士前期課程の授業を担当できる方。現有スタッフと協力して研究できる方。地方大学の置かれている状況をよく理解し対応できること。教育、研究、学科運営に積極的な方。
7. (1) 履歴書 (写真貼付)  
 (2) これまでの研究概要および今後の研究計画書 (各A4用紙2頁程度)、  
 (3) 研究業績リスト (口頭発表等も含む)  
 (4) 主要論文 (5編程度) の別刷またはコピー、およびそれぞれの要約  
 (5) 教育に対する抱負 (A4用紙1頁程度)  
 (6) 教育の経験がある場合はその概要  
 (7) 応募者について照会可能者2名の氏名と連絡先 (電話、e-mail等)
8. 2014年12月19日 (金) 必着
9. (1) 〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地  
 琉球大学理学部物質地球科学科 物理系主任  
 梯 祥郎  
 (2) 琉球大学理学部物質地球科学科 物理系  
 瓜生康史  
 Tel: 098-895-8521 (研究室)  
 e-mail: uryu@sci.u-ryukyu.ac.jp  
 物理系事務室  
 Tel: 098-895-8098 Fax: 098-895-8509
10. 封筒に「応募書類在中」と朱書きし、簡易書留で送付のこと。
11. 選考の過程で講演等をお願いすることがあります (旅費等は自己負担)。  
 琉球大学教員の定年年齢は満65歳です。  
 琉球大学は、「男女共同参画社会基本法」の趣旨に則り、男女共同参画を推進しており、女性研究者の積極的な応募を歓迎します。  
 (詳細は琉球大学男女共同参画室 HP  
<http://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/>  
 および、うない研究者支援センター HP  
[http://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/unai/unai01\\_purpose.php](http://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/unai/unai01_purpose.php)  
 をご覧ください。)

## 人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果 (前所属)
3. 着任時期

### 東京大学宇宙線研究所教授

1. 2014年7月 (第107巻第7号)
2. 塩澤真人 (東京大学宇宙線研究所附属神岡宇宙素粒子研究施設・准教授)
3. 平成26年12月1日

## 会務案内

### 日本天文学会 2014年秋季年会報告

2014年秋季年会は、9月11日(木)から13日(土)の3日間、山形大学 (山形県山形市) にて口頭講演会場10、ポスター会場1を使って開催された。講演件数は口頭講演が473件、ポスター講演が236件で、合計709件の講演があった。年会参加者は920名であった。また、以下に報告するように、通常セッションに加え企画セッション3件も開催された。開催地理事の滝沢元和氏や柴田晋平氏をはじめとした山形大学の方々のご尽力により、順調に進行した。

座長は次の56名の方々に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示し、感謝の意を表する（敬称略）

	9月11日(木)		9月12日(金)		9月13日(土)	
	11:00-13:00	15:00-17:00	09:30-11:30	13:30-15:30	09:30-11:30	13:30-15:30
A会場	T. 銀河団 中澤知洋 (東京大学)	T. 銀河団 田村隆幸 (ISAS/JAXA)	X. 銀河形成 斎藤貴之 (東京工業大学)	X. 銀河形成 長島雅裕 (文教大学)	X. 銀河形成 田村直之 (東京大学)	X. 銀河形成 鍛冶澤賢 (愛媛大学)
B会場	V2. 地上観 小谷隆行 (国立天文台)	V2. 地上観 鈴木竜二 (国立天文台)	V2. 地上観 永山貴宏 (鹿児島大学)	V1. 地上観 三好真 (国立天文台)	V1. 地上観 南谷哲宏 (国立天文台)	V1. 地上観 亀谷收 (国立天文台)
C会場	Y. 教育・他 大山真満 (滋賀大学)	M. 太陽 下条圭美 (国立天文台)	M. 太陽 鳥海森 (国立天文台)	M. 太陽 上野悟 (京都大学)	A. Solar-C 一本潔 (京都大学)	A. Solar-C 草野完也 (名古屋大学)
D会場	C. 星間水素 立原研悟 (名古屋大学)	C. 星間水素 大西利和 (大阪府立大学)	B. 大学間連携 野上大作 (京都大学)	B. 大学間連携 藤沢健太 (山口大学)	B. 大学間連携 泉浦秀行 (国立天文台)	
E会場	J2. 高密度星 山岡和貴 (名古屋大学)	J2./J1. 高密度星 川端弘治 (広島大学)	J1. 高密度星 北本俊二 (立教大学)	J1. 高密度星 高橋弘充 (広島大学)	J1. 高密度星 柴田晋平 (山形大学)	J1. 高密度星 小島康史 (広島大学)
F会場	P2. 星・惑星 小林浩 (名古屋大学)	P2. 星・惑星 住貴宏 (大阪大学)	P2. 星・惑星 成田憲保 (国立天文台)	U. 宇宙論 樽家篤史 (京都大学)	U. 宇宙論 田代寛之 (名古屋大学)	
G会場	N. 恒星 加藤万里子 (慶應義塾大学)	N. 恒星 前田啓一 (京都大学)	P1. 星・惑星 大石雅寿 (国立天文台)	P1. 星・惑星 土橋一仁 (東京学芸大学)	P1. 星・惑星 古屋玲 (徳島大学)	P1. 星・惑星 町田正博 (九州大学)
H会場	R. 銀河 服部誠 (東北大学)	R. 銀河 濤崎智佳 (上越教育大学)	R. 銀河 茂山俊和 (東京大学)	S. 銀河核 大藪進喜 (名古屋大学)	S. 銀河核 峰崎岳夫 (東京大学)	S. 銀河核 永井洋 (国立天文台)
I会場	Q. 星間現象 中嶋大 (大阪大学)	Q. 星間現象 永井誠 (筑波大学)	Q. 星間現象 新永浩子 (国立天文台)	Q. 星間現象 廣田朋也 (国立天文台)	K. 超新星爆発 蜂巣泉 (東京大学)	
J会場	L. 太陽系/W2. 飛翔観 矢野太平 (国立天文台)	W2./W1. 飛翔観 高橋英則 (東京大学)	W1. 飛翔観 鶴剛 (京都大学)	W1. 飛翔観 中森健之 (山形大学)	W1. 飛翔観 幸村孝由 (東京理科大学)	

〈記者会見〉

秋季年会の前日、9月10日(水) 14:00から山形大学にて行われた。櫻井隆会長からの挨拶と日本天文学会秋季年会、公開講演会の紹介の後、2件の研究発表および2件の天文学普及についての報告を行った。報道機関4社の出席があった。

研究発表

- (1) 「銀河系中心を取り巻く半径1万光年の分子ガスの輪」  
発表者：福井康雄（名古屋大学）ほか  
関連する講演番号：Q25a
- (2) 「宇宙の生命素材物質の形成過程を解明：他の惑

星系にも生命が存在する期待が高まる」

発表者：大石雅寿（国立天文台）ほか  
関連する講演番号：Q38a

普及に関連する発表

- (1) 「星のソムリエ<sup>®</sup>資格認定制度、誕生から11年」  
柴田晋平（星空案内人資格認定制度運営機構・機構長／山形大学）ほか  
関連する講演番号：Y06a
- (2) 「系外惑星の命名について」  
山岡均（日本天文学会・教育担当理事／九州大学）  
(山田亨)

## 〈企画セッション〉

## 【SOLAR-Cで探る新しい太陽物理学とその広がり】

次世代太陽観測衛星 SOLAR-C は次期太陽サイクルにおけるフラッグシップ太陽観測装置として計画されている。本セッションは SOLAR-C 衛星の計画策定がほぼ完了し、2020年代における新しい太陽研究の方向性が明確になりつつあることから、SOLAR-C 衛星の科学戦略とその広がりについて太陽および関連分野（天文学、地球惑星科学、宇宙天気・宇宙気候）の研究者によって多角的に議論することを目的として実施された。

セッションは3件の招待講演、応募のあった口頭発表（15件）・ポスター発表（3件）および総合討論から構成され、学会3日目全日を利用して100名程度の参加者による活発な議論が展開された。SOLAR-C はこれまでにない超高分解能観測によって、「太陽面爆発の発現機構解明と科学的予測の実証」、「太陽周期変動の原因解明と太陽気候影響の理解推進」、「彩層・コロナ・太陽風システムの形成機構の解明」、「マルチスケール磁気プラズマ現象の理解の推進」を実現することを目的としている。本セッションでは第1にこれらの目的達成のために SOLAR-C による精密観測がいかに重要であるかを、ひので、SDO、IRIS など最新の衛星観測成果を基に議論が進んだ。特に、コロナ加熱問題に関して招待講演者の鈴木建氏（名大）は太陽光球面、彩層、コロナをつなぐエネルギー流束がまだほとんど定量的に捉えられていない現状をレビューし、SOLAR-C による課題解決を展望した。また、太陽フレアなどの爆発現象に関しても、SOLAR-C の精密観測によってフレアトリガー機構が解明されるとともにその発生予測への道が拓かれる可能性がいくつかの講演で議論された。最近の研究によって彩層磁場がフレア発生のトリガーとなることを見いだされていることから、彩層磁場の精密観測を初めて実現する SOLAR-C に対して宇宙天気予報の観点からも期待できることが示された。また、招待講演者の高橋幸弘氏（北大）は太陽の気候影響に関する問題を整理したうえで、紫外域における太陽放射を SOLAR-C が精密に観測することは成層圏加熱を通じた気候影響の理解に非常に重要であることを述べた。

さらに、海外の衛星計画や地上大型望遠鏡計画と SOLAR-C の協力・連携についても議論された。特に、米国で建設が進む口径4 m 太陽望遠鏡 DKIST について Valentin Martínez Pillet 氏（米国 NSO）が招待講演を行い、SOLAR-C と連携した微細構造観測の重要性を説明された。このほか、SOLAR-C による非平衡プラズマ診断や高時間分解能観測によって磁気リコネクションの内部構造を探る試み、ハンレ効果を利用

した新しい偏光分光磁場観測、SOLAR-C による太陽観測と恒星観測のシナジーなどに関するレベルの高い議論が進み、SOLAR-C の実現が太陽研究のみならず恒星天文学やプラズマ物理学の進展にも大きな貢献をすることが実感できた。以上のとおり、SOLAR-C 計画の科学戦略について太陽分野にとどまらない広範な議論を通して新しい天文学を開拓する次世代観測機としての SOLAR-C を展望することができたことから、本企画は提案者の期待を超える成果を生むものであったと言える。

（草野完也）

## 【電波および光赤外線での大学間連携】

本企画セッション「電波および光赤外線での大学間連携」は、2005年度に始まった VLBI 天文学、2011年度に始まった光・赤外線天文学の大学間連携観測事業に関連する研究成果の発表および意見交換の場とすることを目的として企画された。依頼した6件の基調講演に加え、tennet 等で募ったところ、合計46件の講演の申込みがあった。セッションは年会2日目の午前から3日目の昼まで1日半にわたってD会場にて開催され、70名を超える参加者により、活発な議論が交わされた。

講演は、大学間連携の背景と取組、観測システム開発・研究体制の構築、そして研究成果にわたる多彩なものであった。光・赤外線分野では東大と京大の大型望遠鏡建設計画に関する発表、また比較的小型の望遠鏡が連携することで強みを発揮できる研究計画や成果について発表があった。電波（VLBI）分野では、各大学・各機関の電波望遠鏡の連携による VLBI 観測網の構築、それに関連する各大学のさまざまな研究発表があった。科学研究面では AGN、超新星、ガンマ線バースト、パルサー、矮新星、古典新星、小惑星、星形成領域、変光星など実に幅広い成果が報告され、連携観測が新しい研究の流れを作りつつあることが感じられた。また、大学間の連携という性格を活かして、学生の指導、若手の交流、観測システム開発の指導など、さまざまな人的交流が促進されていることが報告されたのも特徴的であった。

本企画セッションでは講演内容の配置などに工夫し、光・赤外線の連携と、電波の連携が相互の理解を深めることも一つの目的としていた。光・赤外線と電波がともに研究対象とする AGN では、研究の発展のために光・赤外線+電波の同時観測などの連携観測も議論された。今後の大学間連携の研究の活性化にとって、本企画セッションはたいへん有意義であったと考えている。

（藤沢健太）

## 【星間水素の相転移を軸とする新たな天文学】

水素は宇宙の最も基本的な元素である。水素原子・分子を精密に定量することは、星間ガス・ダストをはじめとする宇宙と銀河を理解する要である。1951年に初検出された水素原子からの21 cm線の発見以降、それをういたさまざまな研究がなされてきたが、最近の光学的に厚い中性水素原子の発見によって、高精度な水素原子の定量の可能性が開かれた。21 cm線の光学的厚みを考慮すると、星間空間の原子ガスの量は改定が必要であり、その影響は多岐にわたる。例えば近年質の高いデータが得られているガンマ線の観測から期待される宇宙線フラックスや、宇宙背景放射の揺らぎや偏光データに大きな影響を与える前景成分の量などは、見直しを迫られる可能性が高い。また星間空間における原子ガスから分子ガスへの相転移領域の観測から分子雲形成の謎に迫るなど、今後SKAなどの将来計画によって花開くであろう研究テーマに先鞭をつける意味でも重要である。このような動機から、まずは2014年4月に名古屋大学において小規模なワークショップ開催した。そこでの興味深い発表や活発な議論からこの研究テーマの重要性が明確になり、天文学会での企画セッションを開催することになった。その結果、学会初日の午前・午後の4時間にわたり本企画セッションは行われた。13件の講演と3件のポスター発表からなり、電波・赤外線からガンマ線までの観測的研究、理論的数値シミュレーション、実験、将来計画ミッションの紹介まで、バラエティー豊かなセッションとなった。午前・午後ともに約100名の参加者が集まり、その専門も銀河系内の星間現象にとどまらず、系外銀河や宇宙論など、分野をまたいで研究者たちをひきつけたと思われる。質疑応答も活発で、講演終了後も廊下などで議論が続いていた。今後、この分野の研究が活発に行われ、大きく発展することを期待させるセッションであった。

(立原研悟)

## 〈天文教育フォーラム〉

天文教育普及研究会との共催、日本学術会議物理学委員会IAU分科会の後援で、2014年9月11日(木)17:00より19:00までD会場にて「これからの学校教育における天文学」をテーマに行われた。参加者数は、約130名であった。文部科学省による2016年度の学習指導要領の改訂と、日本学術会議から求められている大学教育の質保証への学問分野からの提言に焦点を当て、研究者・教育者それぞれの立場から話題を提供していただき、情報の共有と交換を行った。

まず、法政大学の岡村定矩さんから、背景説明とこ

のフォーラムの位置づけについてお話いただいた。次に、天文分野における大学教育の質保証について、九州大学の山岡均さんより、学術会議から求められている提言と、その策定に向けての他分野の状況と天文学分野での活動について紹介があった。提言の構成フォーマットに沿って、各項目の原案の詳細な説明があり、フォーラム参加者に対して、追加の提案や現場の情報提供を依頼するアンケートが行われた。

春日部女子高校の鈴木文二さんは、「中等教育の立場から学習指導要領を考える」というタイトルで学習指導要領の変遷と現状を紹介された。前回の改訂により、現行の指導要領がどう変化したか、それに対する評価、次期指導要領への提言を、具体的にわかりやすく示していただいた。また、学習指導要領(本文)・内容の取り扱い・学習指導要領解説書の三つの著作物についても議論された。

話題提供の最後には、東京大学の須藤靖さんから日本学術会議高校理科教育検討小委員会での議論についての報告がなされた。現代社会において必要な科学リテラシーを提供するための高校理科教育のあり方の議論や、「必修」科学の新設案への賛否両論が紹介された。

参加者を交えての議論の時間が予定されていたよりも短くなってしまったが、解説書に検定が入らないことの問題、金星の満ち欠けを教えるべきか否か、大学側の入試問題の内容が高校での教育に影響を与えていることについてなど、活発な意見が交換された。

なお、登壇者の皆さんから提供いただいたスライドデータは、天文教育普及研究会のホームページ内の<http://tenkyo.net/forum/2014-2autumn.html>において公開されている。

(石井貴子)

## 〈懇親会〉

懇親会は学会2日目の9月12日(金)に、山形市内の「ホテルキャッスル」で開催した。参加者数は、事前予約223名(一般157名、学生66名)、当日申込44名(一般22名、学生22名)、開催地スタッフやアルバイト34名(一般9名、学生25名)の合計301名(一般188名、学生113名)であった。会は開催地理事の滝沢の進行で始まり、山形大学副学長の深尾彰理事からの歓迎のこぼに続いて櫻井隆会長からのご挨拶、山形大学の柴田教授の乾杯の発声により懇親会の開始となった。今回は、芋煮をはじめとする山形の郷土料理や県産の地酒やワインなど盛りだくさんで用意をしたが、いつものように参加者皆様の旺盛な食欲はいかなく発揮された。会中頃には山形舞妓による

華麗な舞が披露され、その後には舞妓さんとの記念撮影に興じていた参加者も多く見られたようである。つづいて尾花沢観光協会による花笠踊りの披露があり、途中からは参加者有志も踊りの中に入り、簡単なレクチャーののち一緒にダイナミックな傘さばきを披露した。最後に次回開催地理事の林田清さんから大阪大学での学会の参加への呼びかけがあり、散会となった。

(滝沢元和)

#### 〈保育室〉

保育室を山形大学学生会館集会室5・6にて開設した。8家族子ども8名の利用があった。準備にあたり山形大学のスタッフの方々にご協力いただいたことを感謝する。

(峰崎岳夫, 中道晶香)

#### 〈ジュニアセッション〉

ポスター講演のみを募集し、3件の発表があった。内容は、超新星、銀河、惑星組成の各1件であった。超新星の発表は、今年春のジュニアセッションで初めてのポストデットラインとして受理した超新星SN2014Jの観測報告の続報である。それぞれ、自ら観測(実験)した結果を解析したもので、いずれも力作であった。各ポスターへのコメントを収集し、発表者に送付した。コメントをいただいた研究者の方々に感謝する。また、ポスター会場をご準備いただいた開催地の方々に感謝する。

(大西浩次)

#### 〈公開講演会〉

2014年9月11-13日に山形市で開催される日本天文学会秋季年会に際して、「星の一生～その誕生から死まで」をテーマとして公開講演会を開催した。第一線で活躍する研究者2名の講師に加えて山形在住の著名なアマチュア天文家を迎え、星の誕生からその劇的な最後である超新星爆発星について、そして、山形市在住のアマチュア天文家の超新星発見についての貢献なども交え、地域の特徴も踏まえつつ、最新天文学の成果までを一般の方にわかりやすく紹介し、天文学の普及に努めるとともに、われわれ人間の宇宙への思いをはせるひとときを提供する。以下のプログラムで2014年9月14日13時より16時30分まで講演会を実施した。約350名と予定以上の観客を迎え、また、議論の時間には、超新星の観測の戦略、過去また最新の観測方法の比較、今後の期待される成果についての質問が市民から出され、活発な議論が交わされた。

13:00- 開会: 司会 山岡均

13:00- 理事長挨拶: 理事長 櫻井隆

13:10- 全体の流れなど説明: 司会

13:10-13:50 「たのしく星探しやっています！」

板垣公一氏(35分)(超新星探査を始めてから最新の観測手法や戦略についてわかりやすく解説された。)

13:50-14:40 「1000年の時空を駆けた超新星の話」小山勝二氏(50分)(人類の歴史的な記録や人々の天文現象への関心と現代のX線天文学成果を詳しく述べられた。)

14:40-15:00 休憩(20分)

15:00-16:50 「宇宙138億年の進化」吉田直紀氏(50分)(宇宙誕生から現在までの進化および現代天文学の難問であるダークマター・ダークエネルギーの研究最先端を数値実験のアニメーションとともにわかりやすく解説した。)

16:50-16:30 講演者3名と参加者による質問による立体的な議論の時間(講演者と会場との間で率直な疑問について議論をした。たいへん有意義であった。)

なお、本会は、山形大学、山形市、山形県、山形市教育委員会、山形県教育委員会、NPO法人小さな天文学者の会の後援のもとに行われた。

(滝沢元和)

(年会実行委員長: 宮田隆志)

#### 会長候補者選挙結果

2015年年初の理事会で決定される会長候補者の選挙について、定款第17条及び会長・副会長・理事・監事選考細則(以下、細則)に基づき、結果を次のように報告します(細則第9条)。会長候補者は市川隆氏一名だったため、細則第6条により投票は行わず、市川隆氏を会長候補者としました。

選挙管理委員会委員長 田中培生

**その他**

**IAU（国際天文学連合）の新規会員希望登録について**

2015年8月にホノルルで開催される第XXIX回IAU総会で、新しいIAU会員（メンバー）が承認されます。新会員になることを希望される方は、以下のとおりウェブにて申請をお願いします。会員の方々は周囲にこのことを周知し、推薦すべき研究者をご存じの方はご本人に連絡し申請を奨励してください。

1. 申請期限：2014年12月20日
2. 申請先：<https://prc.iao.ac.jp/prc/iao/>
3. 申請の基準：「天文学・宇宙物理学または関連分野において博士号を取得し、かつその後2-3年以上研究者としての活動歴があること」
4. 申請方法：以下の5に掲げる項目を上記URLのフォームに従って本人が記入する。
5. 記入項目：候補者の氏名、生年月日と出生国、国籍、住所、電子メールアドレス、博士号取得年、取得大学、現在の勤務場所と職名（ポジション）、主要研究分野、主要論文3編（タイトル、雑誌名、巻、ページ、年）、所属を希望するIAUのDivision（最低一つ、複数選択可能）。
  - (1) IAU分科会は上記「申請の基準」の基準に照らして審査を行い、推薦候補者リストを2月中旬にIAUに提出します。基準に満たないと判断された候補者は推薦されません。
  - (注2) IAU会員になるための基準等の詳細については、IAUのWebsite

<http://www.iau.org/administration/membership/individual/qualification/>  
をご覧ください。

★IAUについては、IAUホームページ (<http://www.iau.org/>) に加えて、天文月報の3回連続の特集記事「IAUとの関わりを考える」(2010年11月号, 12月号, 2012年1月号) を参考にしてください。この記事は日本天文学会ホームページ (<http://www.asj.or.jp/>) の「IAU関連のお知らせ」にも掲載しています。

**編集委員会より**

**2015年表紙デザイン決定**

応募作品の中から編集委員会で選考の結果、Eskaさんのデザインを4年連続で採用させていただくことになりました。お楽しみに！

**訂正**

天文月報2014年11月（第107巻第11号）において、「TMT特集」家様記事591頁左側下より14行目、図7キャプションに誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

正) 2億ドル  
誤) 200万ドル

天文月報オンライン/投稿用アップローダーのIDとパスワード

ID: asj 2005

パスワード：雑誌コード（5桁の数字と）**vol98**（5文字）の計10文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○—▲」の○○○○○の部分です。○○○○○は各号共通の数字です。

青木和光(編集長), 市来浄與, 大栗真宗, 勝川行雄, 富永 望, 平松正顕, 廣田朋也, 馬場 彩, 前野将太, 町田正博, 吉田二美

平成26年11月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-8-8 株式会社 国際文献社

定価720円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359 (事務所) / 0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: [toukou@geppou.asj.or.jp](mailto:toukou@geppou.asj.or.jp)

会費には天文月報購読料が含まれます。

©公益社団法人日本天文学会2014年（本誌掲載記事は無断転載を禁じます）